

【会議概要】

2008年10月11日と12日の両日、JR金沢駅前の県立音楽堂を中心に、「第8回CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2008 in 金沢」を開催しました。皆様からのサポートをいただき、無事に終了できたことを心より感謝します。ありがとうございました。

2008年は、我が国でのCRC誕生10周年という記念の年です。そこで、CRC活動のこれまでの10年を振り返り、CRCの原点を改めて見つめ直し、そして、国際化時代に対応できるCRCの果たすべき役割を、臨床試験実施に関与する様々な立場の方々とともに議論し、具体的な方向性を示したいと考え、「これまでの10年とこれからのCRCの役割を考える～CRCの原点の再考と国際共同治験の活性化へ向けて～」というメインテーマを設定しました。具体的な内容は、野村守弘委員長を中心としたプログラム委員会により、時代をキャッチし、先を見越したプログラムが企画されました。

会議は、大きく分けて、①教育講演、②シンポジウム、③ポスター発表の3つから構成されています。今回は、教育講演3件、シンポジウム9件、そして、ランチョンセミナー3件、そして、共同シンポジウム2件を用意しました。ポスターは、204題の発表がありました。また、より密接に意見交換が行えるよう、ミニシンポジウムと呼ばれる形式も復活させました。この形式は、宇部で開催された第4回会議で初めて試みたものです。



教育講演は、以下の3企画が行われました。

① 臨床研究エビデンスを医療技術評価にどう活用するか - 世界の動向と我が国の現状 -

座長 古川 裕之

講師 鎌江 伊三夫 (慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 医療経済学/神戸大学大学院 医学系研究科 応用統計医学)

② 厚生労働省・文部科学省から

A. 日本の医薬品等の開発推進に向けて

座長 小林 真一 (聖マリアンナ医科大学)

講師 佐藤 岳幸

(厚生労働省 医政局 研究開発振興課)



B. 臨床研究支援のための人材育成

座長 井部 俊子 (聖路加看護大学)

講師 新木 一弘

(文部科学省 高等教育局 医学教育課)



③ 医療機器治験 (p.6をご参照ください)

ミニシンポジウム、6つのテーマを準備しました。プログラム委員会からあらかじめ指名された演者は、自分の発表ポスターの前で発表内容について5分程度口頭説明をし、それについて参加者と議論を

交わします。また、今回は、CRCの次世代のリーダー育成のために、進行役の座長各2名は、今後の活躍が期待されるCRCにお願いしました。予想通り、すべてのミニシンポジウムは盛況でした。

現在、我が国のCRCの人数は、5000人と言われていています。その半数がSMO（Site Management Organization：治験施設支援機関）に所属しています。医療機関に所属するCRCは、過去10年で、横のつながりを広げ、共通の問題解決に当たってきました。本会議のプログラム委員、シンポジウム座長、シンポジウムの多くは、ともに歩んできた仲間です。ところが、まだ業務経験の浅いSMOのCRCには、このような「横のつながり」はありません。そこで、日本SMO協会（会長：安田利正）に「横のつながり」を作る企画を提案したところ、それが受け入れられ、SMO所属のCRCが会社の壁を越えて自由に議論できる企画が実現しました。まず、SMO所属のCRCの皆さん同士が交流を深めること、そして、次のステップとして、医療機関のCRCと一緒に共通の問題解決に向けて取り組める日が一日でも早く来ることを楽しみにしています。今回の会議が、その大きな第一歩となればと願っています。

また、JR金沢駅「もてなしドーム」地下広場で、市民向けの企画として、マスコットキャラクター「ちけんくん」との触れ合い、治験クイズ、寸劇の他、アンパンマンショーなどが、日本医師会治験促進センター主催「ちけんフェスタ」というイベントの中で行われました。

本会議の有料参加者は、当日申し込みを含めると2,200人でした。招待者と関係者を含めると、目標の



2,250人を超えることができました。回を重ねる毎に参加者は増加し、最近では、2000～2500名もの人々が全国各地から集まり、活発な意見交換が行われています。これも、日本臨床薬理学会、日本看護協会、日本臨床衛生検査技師協会、日本薬剤師研修センター、日本製薬工業協会、日本SMO協会と日本病院薬剤師会から構成されるCRC連絡協議会が本会議を支援し、参加者と一緒になって本会議を育ててきた結果と、とてもうれしく思っております。

参加者の交流の場である懇親会も、通常の会より参加費を低め（3,000円）に抑えたためか、有料参加者は260人、招待者やスタッフを含めると300人もの多くの方々にご参加いただきました。懇親会では、念願だった90分間のブラジル音楽バント演奏も実現できました。演奏が終わるまでは乾杯のビールだけと我慢を強いられましたが、個人的にはとても満足しています。また、心配だった空模様も、初日の11日は午後から曇りのち晴れ、12日と連休の翌13日は晴れと恵まれました。会議の後の金沢を十分楽しんでいただけたのでは・・・と安心しています。

今回は、オリジナルロゴ付きのスタッフジャンパーも用意しました。ジャンパーの色については、プログラム委員の投票で決定しました。プログラム委員と金沢大学附属病院臨床試験管理センターの全スタッフが、お揃いのピンクのスタッフジャンパーを着て、当日の運営に当たりました。

本会議は、参加者の職種と所属がバラバラであることも重要な特徴です。職種は医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師など、また、所属も医療機関、製薬企業、支援企業（CRO、SMO）、そして、行政機関など多種多様です。立場の異なるそれぞれの視点での意見を自由に述べ合い、同じ目標に向かって歩み寄りを図ることが会議の目的なので、本会議はとても重要な役割を持っています。次世代の方々の手により、本会議がさらに発展することを願っています。

なお、第9回の会議は、2009年9月12日（土）と13日（日）の両日、日本臨床衛生検査技師会の担当でパシフィコ横浜を会場に開催予定です。多くの方のご参加をお待ちします。

（会議代表 古川 裕之）